

◆ CES2019 が閉幕、AI と 5G により形成される未来を提示

世界最大級のテクノロジーイベント、あらゆる業界の企業がテクノロジー企業に

1月11日、4日間にわたり、テクノロジーがもたらす明るい未来を示した CES2019 が閉幕しました。290 万平方フィートを超えるラスベガスの会場には、4,500 社超の企業が最新の技術革新を展示し、延べ約 18 万人もの参加者が集いました。大手グローバル企業からビジョナリーなスタートアップ企業まで様々な団体組織が参加し、テクノロジーの約束する未来というテーマのもと、盛況なイベントとなった。

Consumer Technology Association (CTA：全米民生技術協会) の Gary Shapiro (ゲイリー・シャピロ) プレジデント兼 CEO は次のように述べています。「CES では、イノベーションの力が世界中で問題を解決し、人々の生活をより良くしていることを見ることができます。CES で生まれる情熱やアイデア、ビジネスの取引を鑑みると、CES は世界で最も重要なテクノロジーイベントであり、また 1 年で最もインスピレーションに溢れた 1 週間であるといえます」としている。

また、CES のエグゼクティブ・バイス・プレジデントである Karen Chupka は、次のように述べた。「現在、企業が成功を収めるにはテクノロジーを積極的に受け入れることが必要です。CES2019 では、Procter&Gamble や John Deere、Raytheon といった企業がそのことを見事に証明してくれました。」

CES2019 の基調講演では、AMD や AT&T Communications、IBM、LG、Verizon などテクノロジー分野のトップ企業が登壇した。また、CTA はイノベーションの支援状況について各国を評価した「2019 International Innovation Scorecard」を発表した。

さらに、女性や有色人種をはじめとした、これまで十分な評価を受けられていないスタートアップや起業家に注力するベンチャー・ファンドを対象に、1 千万ドルの投資を行うと発表した。さらに急速に変化する未来において、競争力を保ち続けるための必要なスキルを探索する最新の書籍「Ninja Future」をリリースした。

CES は、輸送、VR、スポーツテクノロジー、デジタルヘルスの中核となる 5G のエコシステムすべてが集結する唯一の展示会だ。

Verizon の Hans Vestberg (ハンス・ベストベリ) CEO は基調講演で次のように述べた。「5G によってすべてが変わります。5G はワイヤレステクノロジーによって私たちが目にしてきたものより大きな希望を与えてくれます」そして、やはり基調講演に登壇した AT&T Communications の John Donovan (ジョン・ドノバン) CEO は、最近 AT&T Communications が発表した 5G Evolution ネットワークについて語った。

CES2019 では、人工知能が私たちの生活のあらゆる側面で影響を与えることが示された。IBM の会長・社長兼 CEO である Ginni Rometty (ジニー・ロメッティ) 氏はオープニング基調講演において、データが「世界で最も重要な天然資源」であること

が AI によって証明され、スマートシティやヘルスケア、輸送、ロボット工学に至るまで広く変革をもたらすことができると語った。Rometty 氏の基調講演では、Delta の Ed Bastian (エド・バスティアン) CEO と Walmart の Charles Redfield (チャールズ・レッドフィールド) 食品担当 EVP が、それぞれの事業における AI とブロックチェーンテクノロジーの事例を紹介した。

CES2019 は、一段とエッジの利いたモビリティイベントで、Bell Helicopter のエアタクシーや Harley-Davidson の電動バイクなど、世界のトップ自動車メーカー 11 社が未来の移動手段に光を当てた。自動運転技術によって人命が救われ、アクセシビリティと生産性の向上をもたらすと予測。

CES Sports Zone では、スポーツテクノロジーのエコシステム全体が展示。スマート・ベニュー、トレーニング、VR・AR、e スポーツのイノベーションによって没入型コンテンツが開発され、スポーツのプレイや観戦、体験が劇的に変わる。Twitter の CEO である Jack Dorsey 氏と NBA のコミッショナーである Adam Silver 氏は、両者のパートナーシップによりソーシャルメディアによるファンのエンゲージメント促進が可能となったことについて議論した。また、Gamespot eSportsトラックでは、10 か所のゲームキオスクで、プロゲーマーや参加者たちがスキルを競った。

C Space には、Procter & Gamble の Marc Pritchard 氏、IBM の Michelle Peluso 氏、Unilever の Keith Weed 氏など、コンテンツクリエイター、米国の映画関係者、広告業界やメディア関係者、業界をリードする CMO が集い、ブランドマーケティングやエンターテインメントの将来について議論しました。展示会やカンファレンスセッションでは、マーケティングやコンシューマーエンゲージメント、モバイルやオーバーザトップビデオ、コンテンツ消費に対する AI の影響について議論が展開された。

CES におけるスタートアップ企業の誕生の地である Eureka Park では、世界 50 か国を超える国々から 1,200 社を超える企業が参加し、破壊的なイノベーションを紹介して投資家や大手ブランドの関心を集めました。Ring、Benillock、LifeFuels といった成功企業を送り出した Eureka Park は今年、全米民生技術協会基金および AARP の後援のもと、ピッチ・コンペティションを開催した。

デジタルヘルステクノロジーも主要テーマの 1 つであり、参加者はヘルスケアの分野における最新の進歩やトレンドに触れました。デジタルヘルスサミットには 260 名を超える医師や医療従事者が参加し、CES では初の医師生涯教育プログラム (Continuing Medical Education : CME) の単位が付与された。

レジリエント・テクノロジーは、世界を健康で安全で優しく、電気と食糧を供給し、セキュリティを確保します。YOLK や Zero Mass Water などの企業の持続可能なテクノロジーは、世界の二酸化炭素排出量を削減しながら、効率的なエネルギーソリューションをもたらす、開発途上国に飲料水を供給する支援する。としている。Higher Ground Technologies などの企業は世界中のどこでも私たちがつながることができるようになる。

◆アストロデザイン通信 第67号

2019年1/29より抜粋して掲載する。

【ニュース】

●永楽館歌舞伎を8KVR撮影

伝統芸能と8K技術の融合による新たなエンターテインメントの形
<https://www.astrodesign.co.jp/news/news-20190108-2999.html>

今年最初のニュースは、日本の伝統芸能である歌舞伎を最先端の8K技術で撮影しました、という新春らしい?話題です。

おかげさまでSNSなどでは歌舞伎ファンの方からの反響も大きく、今後もこういった面白い取り組みを拡げていきたいですね。

●8K技術を用いた32:9ワイド映像で、今までにない『次世代型ライブビューイングの中継』に成功

~圧倒的な臨場感の「B.LEAGUE」を超高精細画像で~
<https://www.astrodesign.co.jp/news/news-20190124-3064.html>

【イベント】

●ISE2019に出展

会期：2019年2月5日～8日 会場：RAI Amsterdam
<https://www.astrodesign.co.jp/event/event-20190102-2975.html>

●SPIE Photonics West 2019に出展

会期：2019年2月5日～7日
 会場：The Moscone Center, San Francisco, California, USA.
<https://www.astrodesign.co.jp/event/event-20190116-3042.html>

●3D&バーチャルリアリティ展 (IVR) に出展

会期：2019年2月6日～8日 会場：東京ビッグサイト
<https://www.astrodesign.co.jp/event/event-20190116-3038.html>

【新製品情報】

●HDMI2.1ユニット VM-1876-MD

デジタルビデオ信号発生器のインターフェースボードとして、HDMI2.1ユニット VM-1876-MDを発売します。
 本機はHDMI2.1規格で追加されたFRL/DSC機能を世界で初めて実装したインターフェースボードです。

HDMI2.1対応機器の評価用信号源としてお役に立ちます。

また、オプション製品のVT-7009、SP-8871と組み合わせることで、8K自然画パターンやユーザーパターンの出力が可能になります。

品名：HDMI 2.1 IF BOARD 型名：VM-1876-MD

発売日：2019年3月

●HDMI2.1プロトコルアナライザー VA-1847

HDMI2.1プロトコルアナライザーVA-1847を発売します。
 本機はHDMI2.1規格で追加されたFRL/DSC機能を世界で初めて実装したプロトコルアナライザーです。

12インチ液晶モニターでHDMI2.1信号のモニタリング及びプロトコル解析、ビデオタイミング計測が可能です。

また、オプション製品のHDMI2.1コンプライアンステスト機能を実装することで、HDMI2.1認証試験のシミュレーションが可能になります。

品名：HDMI2.1 Protocol Analyzer 型名：VA-1847

発売日：2019年3月

<https://www.astrodesign.co.jp/news/news-20190129-3066.html>

【技術トピック】

●HDMI2.1とは

HDMIは、パソコン、ゲーム機などとモニターやプロジェクタを接続する規格です。現在、HDMI2.0がだいたい普及していて、HDMIケーブル1本でフル4Kの映像を送ることができています。

HDMI2.1は2017年11月28日にリリースされた2.0の次のアップグレードバージョンで、今度はケーブル1本で8K映像を送ることができます。

HDMI2.0は18Gbpsの帯域を持っていましたが、2.1では伝送技術の改良により、これが48Gbpsになりました。

48Gbpsから逆算すれば、どのような映像信号が送れるか計算できますが、非圧縮の8K/60Hz、YUV=4:4:4では伝送スピードが間に合わず、YUV=4:2:0での伝送や、HDMI2.1でサポートされるDSC (Display Stream Compression) と呼ばれるリアルタイム圧縮技術を併用してビットレートを下げて伝送することになります。

また、2.1では4K/8Kのみならず、CTA-861-Gの対応ということで、5K、10K等、複数の解像度の映像信号が追加サポートされています。

伝送スピード以外でも、いくつもの仕様が追加されています。

まず、Dynamic HDRのサポートで、フレーム単位でHDRを細かくコントロールすることができ、明るいシーンと暗いシーンが頻繁に出て来るゲームや映画などでHDRを自在に調整できます。同様に、色域もフレーム毎に制御できます。

音についてはeARC (enhanced ARC) がサポートされ、Dolby Atmos、DTS:Xなど最新のオブジェクトベースオーディオシステムに対応します。

また、Variable Refresh Rate (VRR) をサポートし、60Hzなら60Hzという単一のフレームレートでの伝送だけでなく映像源の側で変化するフレームレートに表示側を合わせる可変フレームレートの伝送表示が可能となります。

以上、単に2.0からひとつ増えて2.1になっただけとは思えない多くのアップデートがなされています。

昨年2018年にチップなどが始め、今年2019年からHDMI2.1をサポートした機器が本格的に出回り始める予定です。

アストロデザインは、HDMI2.1を策定するHDMI FORUMに参加し企画策定の段階から計測器メーカーとして協力を行っています。

【最新ファームウェア情報】

●VG-870/871 Ver9.60

・AVI InfoFrameのバージョンが3になっていたプログラムデータを2に変更

●VG-872C Ver3.30

・AVI InfoFrameのバージョンが3になっていたプログラムデータを2に変更

【事例・製品に関するお問い合わせ先】

事業本部 (営業)

TEL: 03-5734-6301 FAX: 03-5734-6102

大阪営業所

TEL: 06-6328-8558 FAX: 06-6328-5058

<https://www.astrodesign.co.jp/contact.html>

メールマガジンの著作権はアストロデザイン株式会社に帰属します。Copyright 2015 ASTRODESIGN, Inc.

発行：アストロデザイン株式会社

<https://www.astrodesign.co.jp>

◆朋栄：SDI/IP 統合管理制御ソフトウェア SOM-100 を発売

SDI 環境 / IP 環境を意識することなく、1 つのシステムとして運用が可能

株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、SDI/IP 統合管理制御ソフトウェア SOM-100 を 2018 年 12 月から発売した。信号分配設備や回線設備から IP 化を始めるか、制作設備から IP 化を始めるかという IP 化へのアプローチの違いはあっても、IP 化を進めるためには、IP アドレスをはじめ、映像信号、音声信号、制御信号など、複数の信号種を管理し制御するシステムが必要不可欠である。また、最終的に、完全な IP 環境に移行するまでは、必ず SDI 環境と IP 環境の制作システムが混在する段階が生じる。その段階においては、SDI/IP のそれぞれの環境で個別に機器を設定して運用するのではなく、映像・音声信号をはじめ、各種グラフィックス、制御信号を 1 つのシステム環境として運用できることが求められる。

SOM-100 ソフトウェアは、Ember+ プロトコルを用いて制御を行い、SDI 環境 / IP 環境にある各機器を制御して、1 つのシステムとして管理できる統合環境を実現する核となるソフトウェアです。IP の柔軟性を活かしながら遠隔地からも機材を活用できるリモート制作をはじめ、各機器を共有しながら利用できるようにするリソースシェア、必要な時に目的に応じて機材を割り当てるシステムチェンジを効率的に行うことが可能。ルーティングスイッチャー MFR シリーズ、マルチビューワー MV シリーズ、シグナルプロセッサ FA シリーズなど朋栄の各種 SDI 製品は、Ember+ ドライバーソフトウェアを使用して統合制御環境に組み込み可能。

SDI/IP 統合管理制御ソフトウェアは 2 種類あり、通常運用時に利用する主系用の SOM-100MAIN と、通常運用時は各種設定をバックグラウンドでバックアップし、障害発生時に自動的に切り替わる従系用の SOM-100SUB で構成されます。システムを安定運用するため主系と従系の 2 系統は常に動作し、障害発生時にはシームレスに制御が切り替わります。WEB ブラウザを使用した GUI からは、統合制御対象となる機器を自動認識し、それぞれの機器の専用アプリケーションを使用することなく各種設定をすることが可能で、IP 機器か、SDI 機器かを意識することなく、IP 環境内で自由に機器構成を変更することができます。また、時間による予約設定といったブッキング機能にも対応する。

品名統合制御ソフトウェア（主系用 / 従系用）

型名：SOM-100MAIN/SOM-100SUB

発売時期：2018 年 12 月 価格：各 100 万円（税別）*

*）5 台分の被制御機器用ライセンスを含む。

SOM-100 には、5 台分の被制御機器ライセンスが含まれるが、SOM-10DEV オプションにより、運用するシステム規模に応じた機器台数分あるいは複数モジュール数分のライセンスを追加して、統合制御の範囲を拡大することが可能。さらに、SOM-10MLVR/SOM-10MLGW ソフトウェアを追加することで、株式会社メディアリンクス製 IP ビデオルーター IP-VR シリーズや IP ゲートウェイ IP-GW シリーズを利用することが可能になる。

オプション（型名）：制御対象機器追加（SOM-10DEV）価格：1 台追加または 1 モジュール追加につき 10 万円（税別）**

メディアリンクス製 IP-VR/PCS 対応（SOM-10MLVR）価格：200 万円（税別）

メディアリンクス製 IP-GW 対応（SOM-10MLGW）価格：1 モジュールあたり 5 万円（税別）** 発売時期：いずれも 2018 年 12 月

**）主系用 / 従系用ソフトウェアのそれぞれに被制御機器のライセンスを追加することが必要になる。

製品に関するお問い合わせ先：株式会社朋栄 国内営業本部

TEL：03-3446-3121 FAX：03-3446-4451

e-mail：l sales@for-a.co.jp

◆ジャパンマテリアル：サイネージプレーヤー BrightSign 内蔵タッチディスプレイ「Bluefin BrightSign Built-in シリーズ」を 2/ 日（金）発売

米国 Bluefin（ブルーフィン）社が開発した「デジタルサイネージプレーヤー BrightSign 内蔵タッチディスプレイ Bluefin BrightSign Built-in シリーズ」を 2 月 1 日（金）より発売する。

● PoE+ 対応 サイネージプレーヤー "BrightSign" 一体型ディスプレイ

○ 10.1 インチおよび 15.6 インチのタッチディスプレイに BrightSign 社のサイネージプレーヤーが内蔵されている。

WiFi Beacon を標準搭載し、PoE+ にも対応しているため、場所を選ばずに手軽にサイネージディスプレイを設置できる。

Beacon 機能を利用してスマートフォンとの連動も可能。

● トータルサイネージソリューションを提供

○ 付属のソフトウェア「BrightAuthor」を使用して、コンテンツのレイアウト作成から、プレイリスト作成、エフェクトやインタラクティブ機能の設定、スケジュールの作成などを簡単にこなせます。

さらに、「クラウド型ネットワーク・ソリューション」BrightSignNetwork.jp[®] を利用すれば、複数台のプレーヤーを効率的にリモート管理することもできる。としている。

● 思い通りのサイネージを実現する多彩な機能

○ 「BrightAuthor」を使用すればコンテンツファイルを準備するだけですぐに、ループ再生や HTML5 の表示、タッチパネル対応のインタラクティブ・プレイリストを作成できる。

● クラウドサービスとのセットもラインナップ

○ 本製品にクラウド型ネットワーク・ソリューション[®] BrightSignNetwork.jp[®] 1 年間の利用ライセンスをパッケージにしたプランもある。

▼ 「Bluefin BrightSign Built-in シリーズ」の詳細

<https://jimgs.jp/products/bluefin.html>

また、新シリーズの販売に伴い、下記の現行モデルは、在庫限りで販売終了となります。

◆ 現行モデル ◆

・ AVNU 10.1 インチタッチディスプレイ

型番：BS/PF10H1B-CT（後継型番：BS/BF10WT）

・ AVNU 15.6 インチタッチディスプレイ

型番：BS/PF15H1B-CT（後継型番：BS/BF15WT）

* 製品の詳細につきましては、ホームページを参照のこと。

<お問い合わせ先>

ジャパンマテリアル株式会社 グラフィックスソリューション部

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-12-1 パークウエスト 8F

TEL：03-5323-0820 FAX：03-5323-0821

E-mail：sales-IT@j-material.jp

URL：www.jimgs.jp/（グラフィックスソリューション部専用ページ）

* 記載された商品名は各社の商標または登録商標です。

◆三友：カメラ内覧会を開催

三友株式会社(本社:東京都品川区/代表取締役:藤森基成)では、毎年恒例となっているカメラ内覧会を1月29日(火)~30日(水)の二日間、青山TEPIA(東京都港区)にて開催し、各社の最新の4Kカメラの他、レンズやモニターなどの周辺機器が多数展示された。

会場内は通路を挟んでカメラコーナーと各社の製品展示のスペースに別れており、カメラコーナーではソニー「HDC-3500」「VENICE」、キャノン「EOS C700」、パナソニック「AK-UC4000」、ブラックマジックデザイン「Blackmagic Pocket Cinema Camera 4K」などを展示。

また、VRカメラコーナーではKandao「Obsidian S/R」「Qoo Cam」、Shenzhen Arashi Vision「Insta360 Pro 2」、Entaniya「HAL 200 ×GH5」を出品した。

一方の出展企業のスペースにおいては、「三友スーパー蚤の市2019」を同時開催した。

同スペースにおける出展企業各社の製品は以下の通り。

■ アイ・ディー・エクス

- ・ Vマウントタイプバッテリー「DUO-C98/C150/C198」
- ・ 新型ハンドLED」
- ・ TVlogic モニター関連「VFM-055A/F-7H」
- ・ 新型ワイヤレス機器「CW-D10」

■ アスク

- ・ ラックマウント型 コンバーター & フレームシンクロナイザー「FS-HDR」
- ・ HDR 波形、ヒストグラム、ベクトルスコープモニタリング「HDR Image Analyzer」
- ・ 12G-SDI → HDMI 2.0 コンバーター「Hi5-12G」

■ 銀一

- ・ RODE アンビソニックマイク「NT-SF1」
- ・ サウンドミキサー/レコーダー「RODECaster Pro(参考出品)ガンマイク、ワイヤレス
- ・ Chrosziel
- ・ ズームユニット「CDM-MK-Z、サンシェード

■ キヤノンマーケティングジャパン

- ・ デジタルシネマカメラ「EOS C200」
- ・ 業務用デジタルビデオカメラ「XF705、XF405」
- ・ 業務用17型4Kディスプレイ「DP-V1711」

■ DJI

- ・ 高品質3軸カメラスタビライザー「RONIN 2/ RONIN-S/Force Pro」

■ 三和映材社

■ JVC ケンウッド

- ・ 4Kメモリーカードカメラレコーダー「GY-HC550/500」
- ・ 2/3インチHDメモリーカードカメラレコーダー「GY-HC900」



ローランド



キヤノンマーケティングジャパン



JVC ケンウッド



カメラ展示スペース



各社製品展示スペース

■ ソニービジネスソリューション

- ・ 4K スーパー35mm CMOS センサー搭載 XDCAM メモリーカムコーダー「PXW-FS7M2K」
- ・ 1/2 インチ4K Exmor R 3CMOS センサー搭載 XDCAM メモリーカムコーダー「PXW-Z280」
- ・ 31 型4K 液晶マスターモニター「BVM-HX310」
- ・ オプティカルディスク・アーカイブドライブユニット「ODS-D280U」

■ パナソニックシステムソリューションズジャパン

- ・ 4K、IP 接続、ストリーミング対応、新型ハンドヘルドカメラ「AG-CX350」
- ・ 4K インテグレートドカメラ「AW-UE150」
- ・ コンパクトシネマカメラ「AU-EVA1」
- ・ 31 型4K 液晶モニター「BT-4LH310」

■ ブラックマジックデザイン

- ・ URSA Broadcast を用いたスイッチングシステム
- ・ Pocket Cinema Cam 4K と片手持ちスタビライザー-DJI Ronin-S による自由な撮影フロー

■ 武蔵オプティカルシステム

- ・ FUJINON「UA24 × 7.8BEZD」

- ・ FUJINON「UA18 × 5.5BEZD」

- ・ FUJINON「MK18-55mm T2.9/MK50-135mm T2.9」

■ 他出展社

- ・ キャンキャスト7
- ・ テクニカルファーム
- ・ テクノハウス
- ・ TO GO
- ・ 日本ビデオシステム
- ・ マンフロット
- ・ ローランド

■ 三友コーナー

- ・ 最高峰シネマレンズ Leitz「CINE LENSES」
- ・ 高品質シネマ用ND フィルター「TRUE ND」
- ・ 録画機能搭載、8K コンテンツプレーヤー「HyperCUBE R」(参考出展)
- ・ 小型タイムコードジェネレーター「Tentacle Sync E」
- ・ ビデオアシスト装置「OKTOMAG」「OKTO.video」
- ・ プロフェッショナル機材ケース「PortaBrace/ORCA バッグ」
- ・ 可搬型バックアップ電源「ELic WALKER」
- ・ 高性能小型カメラ「Dream CHIP -ATOM one-」参考出展



ソニーマーケティング



パナソニック



ブラックマジックデザイン



ATV [A-PRO-1]



日本ビデオシステム



銀一 [RODE]



MEDIAEDGE [NINJA]



三友 [HyperCUBE]



三友 [PortaBrace]